

特定非営利活動法人 APLA

2019 年度事業報告



2019年度は新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的感染拡大への対応に追われる中で閉じました。収束の見通しが立っていない状況が続いていますが、感染症の脅威のみならず自然災害にも相次いで見舞われた一年でした。12月、ドイツのシンクタンクによって発表された『世界気候リスク指数2020』（原題：Global Climate Risk Index 2020）によると、2018年に気候変動による影響を最も受けた国は日本。次いで第2位はフィリピン、3位ドイツと続きます。実際に、2018年の西日本大豪雨による土砂災害、2019年の九州豪雨、台風15号および19号など、気候変動に起因すると考えられる災害が相次いでいます。また、第2位となったAPLAが活動するフィリピンでも大型台風や地震による大きな被害が出ています。今後そうした流れがより激化していくことが予想されるなかで、APLAが取り組んできた「農と環境保全を軸にした地域づくり」の意義はさらに大きくなっていくと確信しています。

フィリピン・ネグロスのカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）10周年、そして東ティモールでの活動も10年の節目を迎えました。それぞれ、これまでの活動の成果と課題を整理し、今後の活動方針について現地スタッフとの議論を継続しています。社会的背景の変化や組織体制の変化に伴って過渡期を迎えているAPLAですが、引き続きアジアの現場で農を軸に活動する仲間と向き合い、お互いの経験を共有し、関係を深化させていくことで、持続可能な社会を草の根から育てていきたいと思えます。

◆海外支援事業

フィリピン・ネグロス

フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（以下 KF-RC）の自立運営をサポートしながら、KF-RC を軸に次世代の農民を育て、地域に循環型有機農業を普及していく活動を進めました。

【実施した活動】

① KF-RC10周年記念プログラム：

2019年7月に10周年を迎えることを記念して、祝う会が開催されました。KF-RCの卒業生や関係者のみならず、これまでJCNC/APLAと共に活動を続けてきたネグロス島内の小規模農民やバラゴンバナナ生産者の組合やオルター・トレードの仲間たち、そして日本からもAPLA、ATJ、グリーンコープ、BMW技術協会などから総勢約100名が参加し、共に10周年を祝い、つながりを再確認する機会となりました。



記念会の参加者たち

② 第8期研修生の受け入れ、卒業生のフォローアップ：

2018年9月から研修を受けてきた第8期生4名が7月に無事卒業を迎えました。KF-RCに来た当初は下を向いて恥ずかしがってばかりだった研修生でしたが、卒業式では前を見て自信に満ちているような表情が印象的でした。地元に戻り、KF-RCで学んだことを実践していく卒業生をKF-RCとAPLAで順次サポートしていきます。



7月に卒業した第8期研修生4名

これまでの卒業生（第1期～第7期生）のフォローアップもKF-RCスタッフと一緒に継続しています。卒業生の畑を訪問して、成果や課題を話し合い、卒業生が地域で孤立し、挫折しないようにサポートをしています。KF-RCの活動の評価作業に伴い、これまでの卒業生へのインタビューを通して、研修システムの見直しも実施しました。

③ 感染症による影響：

アフリカ豚コレラ流行と新型コロナウイルス感染拡大により、KF-RCの運営にも大きな影響が出ています。特に養豚事業の運営がかなり厳しくなっており、お客さんの減少、市内の肉屋や家畜市場の休業などの理由で、養豚事業の収入は激減し、逆に、売れ残っている豚の飼育を続ける必要があるので餌代が増えてしまっている状況が続きました。3月末にはネグロス島内で発令された外出制限によって事態が悪化したため、APLAとして1カ月分の餌代として15万ペソ（約33万円）をKF-RCに対して緊急支援しました。



車両の進入を禁止した感染症対策

フィリピン・北部ルソン

年2回の現地訪問を予定していましたが、アフリカ豚コレラ流行と新型コロナウイルス感染拡大の影響を鑑みて中止しました。現地パートナーからの報告によれば、2か所のBMW プラントの稼働計画とこのことです。

マラピン渓谷のギルバート農園では、柑橘は全体的に豊作であるとのことですが、多様性に向けて、柑橘以外にも多種の果物を植え始めています。ヌエバ・ビスカヤ州青果物卸売市場（NVAT）では、プラントで製造される生物活性水を定期的に持ち帰る生産者が増え始め、少しずつですが地域で活用される循環が進み始めました。

※BMW 技術：微生物（バクテリア）とミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。生物活性水は、この技術により作られる活性水。

東ティモール

コーヒーの産地であるエルメラ県において、県内の公立小・中学校への学校菜園普及のために、昨年度に引き続き、教員・生徒向けのワークショップの実施とフォローアップを展開しました。また、学校菜園についてわかりやすく説明する指南書を増刷し、学校への配布だけでなく、今後の活動展開に活用してもらうためにエルメラ県教育局にも進呈しました。

県内4郡の5校における生徒への聞き取り調査の結果、ほぼすべての生徒が学校菜園で学ぶ前と後では農作業に対する向き合い方についての気持ちが肯定的なものに変化しており、さらに、学校で学んだことを家庭でも実践しているという具体的な行動変化が見られた生徒が約7割にのびりました。



子どもたちへの聞き取り



指南書は 1m×1m サイズで作成

インドネシア

エコシュリンプの産地である東ジャワ州シドアルジョで、エビ生産者の生計維持や環境共生型のエビ養殖の将来を考え、地域の環境保全活動に取り組んでいる KOIN の活動に協力しました。KOIN は、エビ養殖池に流れ込む4河川の水質調査、養殖池に隣接する村でのゴミ回収活動、養殖池でのマングローブ植林、地域での環境セミナーなどを実施しています。



ゴミ箱を村の各家庭に配布

ラオス

2018 年度に引き続き、ラオス南部ボーラヴェーン高原のコーヒー農家の若者 4 人がタイの篤農家を訪問する研修プログラムを実施しました（※）。昨年度の研修およびその後のフォローアップや聞き取りを経て、アボカド・マカデミアナッツ・果物の栽培の技術、家畜の飼育・加工販売といった具体的な項目にテーマを絞った研修とし、今後の地域での収入多様化につながることをめざしています。

※タイ東北部のカオデー農園と PLC (P-nong Learning Center) の全面的な協力を得ています。



アボカドセミナーに参加し、挿し木で苗を増やす方法を習得



タイの畜産農家から具体的な技術を学ばせてもらう

◆広報・出版事業

◎ ハリーナ発行 (Vol.243 号～44 号発行)

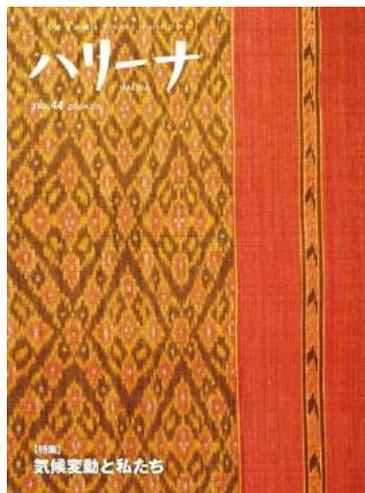
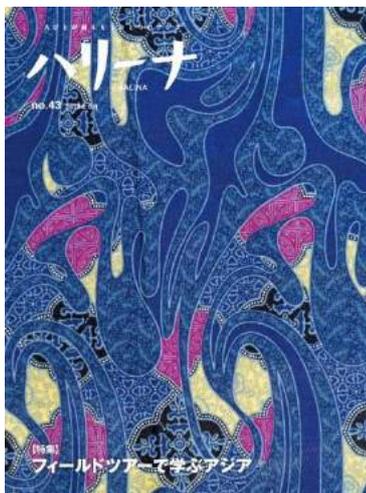
今年度は、事務局体制の都合で 2 号のみの発行となりました。

43 号 2019 年 8 月

【特集】フィールドツアーで学ぶアジア

44 号 2020 年 2 月

【特集】気候変動と私たち



※ウェブサイトで最新号以外の
バックナンバーを全ページご覧いただけます。



<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/halina>

◎ PtoP News (vol.31～36 発行)



特集ラインナップ (ATJと協同で隔月で発行しました)

- Vol. 31 (4月) ラオスコーヒー、いかがですか？
- Vol. 32 (6月) エコシュリンプ～スラウェシ島での新たなチャレンジ
- Vol. 33 (8月) バナナの民衆交易が山村の風景を変えた
- Vol. 34 (10月) ATJ30周年 広がる協同のネットワーク
- Vol. 35 (12月) カカオキタ・カフェ from インドネシア・パプア州
- Vol. 36 (2月) コーヒー・プレミアム七変化

※バックナンバーは全てウェブサイト上でご覧いただけます。

<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/ptop>



◎ 「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ

2019年度で8シーズン目となったワークショップ。子ども・親子向け(学校、自治体)7カ所、一般向け6カ所、生協7カ所、合計375名ほどの参加者がありました。新型コロナウイルスの影響で、2月後半から3月にかけて開催を予定していた3カ所でのワークショップは残念ながら開催中止となりました。なお、自治体の環境活動や消費者教育活動を受託している団体に口コミで広がっているようで、講師依頼が増えてきています。



エコギャラリー新宿で開催した
チョコレートワークショップ

◎ 小学校でのバナナの授業

横浜市立瀬谷第二小学校6年4組の「総合」の授業をAPLAが担当し、計3回バナナに関する授業をしました。子どもたちは、自分たちと同じくらいのフィリピンの子供たちが被害にあっている農業問題について衝撃を受け、関心を持っていました。そして、授業で調べたことを多くの人に知らせると同時に、被害に遭った子どもたちのための募金集めにも取り組み、最終的に53,000円を農業の空中散布反対にも取り組んでいるミンダナオ島の環境保全団体IDISに送金しました。子どもたちを対象にした広報活動に手応えを感じたと同時に、教育プログラムを作り上げる目標ができました。



貿易ゲームを通じて、
モノの流通や貧困について考える

◎ サアド・ダゲールさんを囲む会 開催

11月、パレスチナから「しあわせの経済」国際フォーラム 2019 への参加のために来日したサアド・ダゲールさんに、ご自身が立ち上げたコミュニティ協同農場「Ma' azuza (人間的な農場の意味)」での取り組み、その根底にあるアグロエコロジーについてお聴きする会をパルシステム東京との協同で開催しました。APLAとしては、パレスチナでは直接活動をしてきていませんが、ATJのオリーブオイル生産者やサアドさんの農場 Ma'azuza を訪問し、交流できるようなツアーを開催したいというアイデアが出るほど貴重なお話を聴くことができました。



サアドさんのお話のあとは、
パレスチナ料理を食べながら質問・交流タイム

◎ エシカルバナナ・キャンペーン

2018年夏に、(株)オルター・トレード・ジャパンおよびNPO法人アジア太平洋資料センター (PARC) と協力して立ち上げたエシカルバナナ・キャンペーンで、フィリピン産バナナについての調査や情報発信を継続しておこなってきました。



6月には、緊急声明「問題を放置したままの住友商事の撤退は許されない 株式売却前にフィリピン・バナナ生産現場での労働・人権問題に責任ある対応を！」を発表しました。

ウェブサイト <https://www.e-banana.info/>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/ethicalbanana/>



スミフルの出荷作業場から労働者代表 2 名を招聘。
外国特派員協会での記者会見の様子



バナナの裏側の現実を日本の消費者に伝えるべく、
開発教育全国研究集会 (d-lab) でワークショップを担当

◎ フェアファイナンスガイド・ジャパン (FFGJ) のバナナのケース調査実施

日本の大手金融機関の投資融資方針を社会性の視点から格付けするフェアファイナンスガイド・ジャパン (FFGJ) の一運営団体として、主に SNS での情報発信を担っています。格付けスコアだけでなく、問題企業・事業をピックアップし、投融資方針と実態の差異に光を当てるための「ケース調査」も実施し、環境破壊や人権侵害等への資金循環を止めていくことを目指しています。

ウェブサイト <https://fairfinance.jp/>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/fairfinanceguidejapan/>



◆交流事業

◎ 福島・二本松

福島県二本松市の二本松有機農業研究会の取り組みのモラルサポートとして、アユス仏教国際協力ネットワークと一緒に現場を継続訪問しています。

「パネルサポーター」を集めて応援してきたソーラーシェアリング第1号機（2018年に完成）の稼働は順調で、売電により2019年は約230万円の収入（27円/kWhで売電）があり、うち100万円を年間の借入金返済、残額130万円を二本松有機農業研究会の運営費に回しているとの報告を受けています。また、パネルの下では、連作障害を防ぐために大豆の後に小麦が作付けられており、7月頃に収穫予定とのことでした。



第1号機下で順調に小麦が育っています

◎ 福島の子どもたちに届けよう、バナナ募金

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと福島の保育園・幼稚園に農薬を使わずに栽培されているバランゴンバナナを定期的に送る活動を継続しています。今年は8年目の取り組みです。

7月にあすなる保育園（福島市）の園児および卒園児向けの夏祭りが開催されるということで、共同代表の市橋氏がPtoPカフェ車で参加しました。普段送っているバランゴンバナナのジュースを無料配布しました。

9月にはバナナのお届け先である6つの園を共同代表の秋山氏、疋田氏、理事の廣瀬氏、事務局の寺田で訪問をして、先生方から福島の現状について話を伺ったり、園児たちにバランゴンバナナの動画見せたりして交流を深めました。



夏祭り出店の様子



バランゴンのこと、フィリピンのことの話をし、園児と交流

- ◆【発送先】いわき市2件、福島市11件、郡山市1件、南相馬市1件、相馬市1件、保養先1件：計17件
- ◆【19年度発送状況】バナナ688kg（312,255円相当）
- ◆【19年度募金総額】479,938円

◎ BMW 技術協会

ネグロスで開催される第5回アジアBMW技術交流会/第5回全国交流会（2019年11月）に向けて、実行委員会のメンバーとして準備を進めてきましたが、フィリピン国内でのアフリカ豚コレラの流行と日本国内での豚コレラの流行の状況を鑑みて、開催が無期延期となりました。それに伴い、東京での全国交流会開催に向けて、実行委員会のメンバーとして準備を進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を鑑みて、中止となりました。

基礎セミナー（8月）、若手幹事会（11月）に参加しました。BMW技術について学び、国内の生産現場での現状を共有しながら日本全国の生産者と交流をしました。

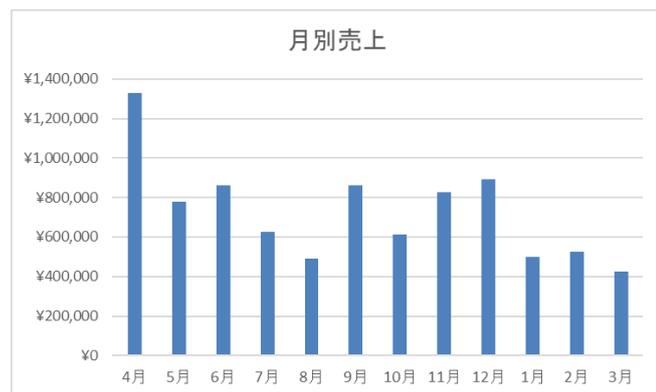
◆民衆交易・フェアトレード事業

生産者と消費者を結ぶ民衆交易品のオンラインショップやイベントでの販売を通じて、人、モノ、コトを双方につなげ共に支え合える関係づくりをめざしています。

◎販売事業

事務局の人員体制の変更により、2019年4月15日からはネットショップのバラ・セット販売を休止し、箱単位での発送のみに限定して運営しました。前年度までに比べ大幅な売り上げ減となりましたが、箱単位でも購入して下さる常連のお客様をはじめとして、当初の予想以上にご注文をいただき、予算も大きく上回りました。

- ◆ ネットショップ：5,438,017円
 - ◆ 手わたしバナナくらぶ：1,600,650円
 - ◆ イベント、PtoP カフェ：838,598円
 - ◆ 事務所販売その他：850,282円
- 合計：8,727,547円
(予算：3,360,000円)



◎イベント出店

イベント出店回数 17 回。事務局の体制を考慮して、積極的な出店はしていないという方針の中で、イベントを見極めながらできる限り出店しました。顔と顔を合わせて民衆交易の魅力や魅力を直に伝え、モノを通して現地での活動を知ってもらえる貴重な機会となっています。

◎PtoP カフェ

カフェ車出店回数 9 回。運営に関して試行錯誤をしながら出店を継続しています。民衆交易品の魅力をその場で味わってもらえるカフェとして多くの人に好評いただいております。カフェ車があることによってイベントのお誘いをいただくこともありました。



長善寺でのカフェ車出店の様子



少ないイベント出店回数でしたが、
一つひとつ工夫をしながら出店しました。
@フェアトレードマルシェむさしの

◆緊急救援事業

◎ ミンダナオ地震による被害への支援

2019年10月、フィリピン・ミンダナオ島コタバト州でマグニチュード6規模の地震が相次いで発生しました。特に10月31日の地震ではコタバト州マキララ町のバラングバナナ産地で大きな被害が出ました。「APLA 緊急災害支援準備金」の運用ルールにもとづき、緊急支援金として合計3万米ドル（日本円換算で330万6000円）を、バラングバナナの出荷責任団体ドンボスコ財団に送金いたしました。ドンボスコ財団の敷地内の建物自体も壊滅的な被害を受けましたが、スタッフの皆さんはバラングバナナ生産者や近隣地域の被災住民への支援活動にあたっています。

※「APLA 緊急災害支援準備金」残額：12,564,466円



水道も壊れた地域のためにホースを支援

◆事務局報告

■ 他団体とのネットワーク

- ・ 東ティモール・フェスタ実行委員会
- ・ NGO非戦ネット
- ・ 辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク
- ・ エシカルバナナ・キャンペーン
- ・ フェアファイナンスガイド・ジャパン
- ・ アーユス仏教国際協力ネットワーク、JIM-NET とともに福島でつながった人びとを応援する活動を継続しています。

■ 会員・サポーター報告 2020年3月31日時点

	個人	団体	合計
正会員	94 (96)	31 (35)	125 (131)
賛助会員	82 (87)	11 (14)	93 (101)
マンスリーサポーター	15 (15)	-	15 (15)
APLA サポーター	2 (2)	-	2 (2)
合計	193 (200)	42 (49)	235 (249)

() = 前年度数

■ 組織体制

理事：秋山真兄（共同代表）、市橋秀夫（共同代表）、疋田美津子（共同代表）
吉澤真満子（事務局長）、上田誠、鹿毛優子、廣瀬康代、堀芳枝、箕曲在弘（以上9名）

監事：近藤康男

評議員：赤松結希、秋山澄兄、安藤丈将（2月末で退任）、大橋成子、近藤恵、（以上5名）

顧問：弘田しずえ、前島宗甫

事務局員：吉澤真満子（事務局長/5月より産休） 野川未央（専従/5月より事務局長代行）

寺田俊（専従）、坂野亜希子（パートタイム）

■ 総会・理事会・評議員会

総会：第12回総会（2019年6月1日）

理事会：第35回（2019年4月6日）、第36回（2019年8月31日）、第37回（2020年2月29日）

評議員会：第27回（2019年8月31日）、第28回（2020年2月29日）

◆カレンダー

《4月》

- 6 理事会・評議員会開催
- 13 カカオ WS@フレンドリークラブ (金沢文庫)
- 15-16 アーユス春合宿に参加
- 19 コーヒーWS@パルシステム埼玉
- 20-21 アースデイ東京 2019 に出店
- 24 東洋大学で授業

《5月》

- 11 「東日本大震災チャリティバザー」にカフェ出店
- 18 東ティモール・フェスタ 2019 に参加
- 25 フェアトレードマルシェむさしのに出店

《6月》

- 1 第12回総会
- 6 カカオ WS@パルシステム埼玉 (狭山)
- 8-9 第4回食育マルシェ&食育映画祭に出店
- 9 第8回ブルーデイジーでバナナについての講演
- 18 横浜市立瀬谷第二小学校で授業
- 19 大東文化大学で講義
- 20 農業経営大学校で講義
- 21 コーヒーWS@フレンドリークラブ (金沢文庫)
- 23 エシカルバナナ・キャンペーン実行委員会として
報告会「あなたのバナナは良いバナナ？」を開催
- 26 千葉商科大学『ソーシャる』の取材
- 26 日本大学で講義
- 28 JCNC 北海道の例会に参加
- 29 「フェアトレードフェスタ in さっぽろ 2019」でバナナについてのトーク

《7月》

- 6/29-7/17 フィリピン・ネグロス出張



学生ボランティアも大勢参加してくれました！
@アースデイ東京 2019



ステージで現地のコーヒーの淹れ方を実演！
@東ティモール・フェスタ 2019



千葉商科大学の学生たちが APLA の活動についての取材をし、その内容を『ソーシャる』という媒体で紹介してくれました。



BMW 技術の飲水改善タンクの増設をしました。
@ネグロス・KF-RC

《8月》

- 2 佼成学園女子高等学校で授業
- 3 カカオ WS@東都生協（諏訪方永山聖）
- 4 開発教育協会主催の d-lab でエシカルバナナ・キャンペーンとして分科会『あなたのバナナは「いいバナナ」？－現代的フィリピンバナナ問題を考える』を担当
- 5 川村学園女子大学で講義
- 20-21 BMW 技術基礎セミナーに参加
- 24 パルシステム東京主催ピースフェスタに出展
- 31 APLA 理事会・評議員会開催

《9月》

- 3-4 バナナ募金のバナナお届け先6園を訪問
- 5-17 東ティモール出張
- 10-17 事業評価のために市橋共同代表、箕曲理事が東ティモールを訪問
- 22 パルシステム神奈川ゆめコープ「平和・国際フェスタ」に出展
- 23 グリーンコープくまもとワーカーズ・コレクティブ「食育の会わくわく」でカカオ WS 研修を開催
- 28 カカオ WS@あらかわエコセンター

《10月》

- 3 カカオ WS@パルシステム埼玉（川越・鶴ヶ島・坂戸）
- 3-16 フィリピン・ネグロス出張
- 8 カカオ WS@パルシステム神奈川ゆめコープ（横浜）
- 11 パルシステム埼玉「平和のつとめ」に参加
- 16 カカオ WS@パルシステム東京（桜上水）
- 19 第5回食育マルシェに出店
- 20 第3回ひので観光&物産フェアにカフェ出店
- 23 獨協大学で講義
- 26-27 フェアトレードむさしの FESTA にカフェ出店
- 28 東別院てづくり朝市にエシカルバナナ・キャンペーンとして参加
- 28 グリーンコープ主催「fromネグロス学習会」に参加
- 29 名古屋学院大学で講義
- 29 「いのり題目の日」にカフェ出店
- 29-11/1 グリーンコープ主催「fromネグロスセミナー」に参加し、ATPF の3名と一緒に9単協を訪問
- 31 横浜市立瀬谷第二小学校で授業



分科会ではバナナ労働者の生活を身近に感じてもらえるように工夫を凝らした算数問題に挑戦！

@開発教育協会主催の d-lab



たくさん子どもたちと交流することが出来ました。バナナの話は先生たちも興味津々♪

@福島・原町聖愛こども園



アシスタントスタッフとなったドロイ氏(左)

@ネグロス・KF-RC



授業の日がハロウィンだったので、子どもたちの手作りパーティーにも参加させてもらいました。

@瀬谷第二小学校

《11月》

- 2-4 「terrart 長善寺 アート展 2019」にカフェ出店
- 4 「知らなかった! アジアンコーヒー入門」を共催
- 7 グリーンコープ生協ととりで開催された「fromネグロスセミナー」で講師を担当
- 8 東洋大学で講義
- 9 「しあわせの経済」国際フォーラム 2019 に出店
- 12 グリーンコープ生協ひょうごで開催された「fromネグロスセミナー」で講師を担当
- 14 カカオWS@パルシステム東京(あきるの)
- 14 「サアド・ダゲールさんを囲む会 ~パレスチナにおけるアグロエコロジー、エコビレッジ、産直運動の実践について聴く~」をパルシステム東京と共催
- 19 コーヒーWS@パルシステム埼玉(八潮)
- 19 グリーンコープ生協かごしまで開催された「fromネグロスセミナー」で講師を担当
- 21-25 フィリピン・ネグロス出張
- 23 「お話し会 -Bean to Bar Chocolate- パプアのカカオとマスコバド糖」を開催@Pand(岐阜)
- 25 名古屋学院大学で講義
- 29 コーヒーWS@新宿未来創造財団・新宿文化センター

《12月》

- 6 地球環境基金助成団体活動報告会に参加
- 7-15 東ティモール出張
- 8 第13回国際有機農業映画祭に出店
- 11 カカオWS@パルシステム東京(北A)

《1月》

- 9 目白大学で講義
- 11 コーヒーWS@フレンドリークラブ(金沢文庫)
- 12 カカオWS@エコギャラリー新宿
- 25 カカオWS@静岡県職員組合

《2月》

- 1 カカオWS@新宿未来創造財団・新宿文化センター
- 2 カカオWS@リサイクル千歳台(世田谷区)
- 4 学芸大学附属高等学校・校外実習で授業
- 8 ATJ30周年記念会に参加
- 10-20 フィリピン・ネグロス出張
- 14 カカオWS@フリースペースえん(川崎)
- 23 神戸スローフードアカデミーで講演
- 26 カカオWS@ザ・モンテッソーリ・スクール・オブ・東京
- 29 APLA 理事会・評議員開催

《3月》

- 4-16 インドネシア出張、東ティモール出張



コーヒーワークショップの依頼も
少しずつですが増えてきました!



素敵な笑顔をバシャリ!
パレスチナ料理も大好評でした。
@サアドダゲールさんを囲む会



民衆交易の歴史やこれまでの活動についてまとめるため共同代表秋山が聞き取りをしています。
@ネグロス



出張の度に子どもたちは大きくなり、
若者たちもどんどん成長しています。
@東ティモール